

○ 台風10号情報（8月24日9時現在）

台風10号の進路が、夏台風特有の迷走型になってるため、予想が難しくなっていますが、最新の情報から今後の予想進路、影響について解説します。

1 台風の進路

27日頃までは南大東島の近海で停滞しますが、その後、これまでの経路を戻るかのような進路が予想されてきました。気象庁、米軍台風センター、ヨーロッパ中期センターの長期予想が揃ってきました。

それによると、台風は勢力を強めて停滞した後、東ないし北東に進み29日から30日にかけて北上する予想です。

この場合は、予想が西寄りの場合は、近畿地方から東海地方に29日～30日にかけて、東寄りの場合は、関東地方に30日～31日に接近または上陸の可能性が出てきました。

なぜ、この進路になるかと言えば、台風を流す上空の気圧配置が変わらず、太平洋高気圧（サブハイ）が本来の位置（関東東南方海上）から北海道の東海上になっているため、本来の位置が低圧部（上層寒冷低気圧UCL）になり、小笠原諸島付近から北海道の北まで、気圧の谷を形成しているためです。

そのため、サブハイが東西に分断され、西側のサブハイが東シナ海から九州付近を覆う形になっています。台風がある場合、相対的にサブハイは強化されるため、10号は2つのサブハイに囲まれて、身動きできない状態です。

しかし、ようやく、大陸からかなり深い気圧の谷が東へ進み、その一部が朝鮮半島付近で寒冷渦となるため、この後は、この寒冷渦の影響を受けて上記のような進路となる予想です。

2 宮崎への影響

台風10号は、現在、海水温度の高い海域にあるため、発達を続けていますが、27日頃に935hPa前後で最盛期を迎える予想です。ランクは非常に強い台風になります。また、暴風半径、強風半径も拡大しますが、宮崎には、いずれもかからないと予想されています。

しかし、宮崎地方には、北東の風が入るようになり、台風の発達とともに気圧傾度が強まるため、風も少し強まってくると予想されます。また、雨は台風からの吹き付けで、驟雨（俄雨）がありますが、台風の西側に位置するため、雨量は多くならないと予想します。

台風10号が通過後は、一時的に北からの寒気も入るため、来週30日頃から、朝夕は秋めいてくると予想します。

心配なのは、8月の雨量が極端に少なくなっていることです。10号の影響でも多くの雨量は期待できません。今後、干ばつ傾向になってくるのではと思っています。今後の天気傾向に注意してください。